

厚生労働省 令和元年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業  
「地域生活定着支援センターにおける質の高い実践を担う人材を全国的に育成するための、  
研修カリキュラム及び効果的な業務サポートツール等の検討・開発に係る研究事業」

## 「理念研修 資料」

令和元年度

一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会

厚生労働省 令和元年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業  
「地域生活定着支援センターにおける質の高い実践を担う人材を全国的に育成するための、研修カリキュラム及び効果的な業務サポートツール等の検討・開発に係る研究事業」

## 「理念研修 資料」

- 理念研修 開催要項
- 参加者アンケート
- 理念研修 資料

令和元年度 社会福祉推進事業

「理念研修」の実施に関して

1) 【目的】

定着支援センターの事業化から10年が経過する中で、基礎講座やリーダー研修といった実務な研修のみならず、罪を犯した障害者・高齢者と向き合う上での理念を改めて明確化し、職員に広く浸透させていくことが必要不可欠である。こうした点を踏まえ、基礎講座やリーダー研修といった実務的な研修とは別に、生きづらさを抱えた対象者と向き合うための理念研修を実施する。具体的には、社会から排除され困窮状態にあった人々の「生」と向き合い、その支援の最前線を体感する。また、生きづらさを抱えた対象者の支援を牽引してきた先人の声を聴き、その体感をより確固とした理念として落とし込んでいく。

2) 【開催日時】：令和2年2月28日（金）13：30～29日（土）12：30

3) 【開催場所】：1日目：東八幡キリスト協会（北九州市八幡東区荒生田2-1-40）

2日目：北九州市生涯学習総合センターA・B会議室（北九州市小倉北区大門1-6-43）

4) 【参加人数】：17名

5) 【参加対象者及び選出方法】

■各ブロックより2名を自薦・他薦にて選出（12名：2名×6ブロック）

■上記12名の他、自費(所属機関負担)による参加者5名（事務局員含む）

6) 【プログラム】

1日目 2/28（金）	13:30～14:00	オリエンテーション ・事務連絡（開催趣旨説明含む） ・抱樸より挨拶 ・参加者自己紹介
	14:00～15:00	【座学①】：抱樸における取り組みなど(60分) 講師：小畑 孝仁 氏 (抱樸更生保護事業部長・福岡県地域生活定着支援センター所長)
	15:00～18:00	【座学②】：「生活困窮者支援における伴走型支援」(180分) 講師：奥田 知志 氏 (抱樸理事長)
	18:00～19:30	ホテル移動・食事（各自）
	19:30～24:00	【炊出し設営及び炊出し・パトロール】
	オプション：参加希望者	
	24:00～	【やるばい！酔いどれ語ろう会】
2日目 2/29（土）	9：00～12:30	【座学③】：グループディスカッション(講義の落とし込み)(210分) 進行：山田 耕司 氏 (抱樸事業担当常務) ・事例検討 ・意見交換
	オプション：参加希望者	
	13:30～16:00 ※小倉駅解散	【フィールドワーク】：抱樸施設見学ツアー（担当：山田氏）

7) 【参加費用】

- 各ブロックより選出された12名については、交通費及び宿泊費を拠出します。  
その他、期間中の諸経費(食費等)は参加者の方で実費負担をお願いします。

8) 【宿泊場所】

- 宿泊先の手配は参加者各自でお願いします。

9) 【保 険】

- 業務の一環として参加し、怪我や事故については参加者所属機関の労災等で対応をお願いします。

10) 【会場・集合場所】

- 1日目：東八幡キリスト教会（北九州市八幡東区荒生田2-1-40）



- 2日目：北九州市生涯学習総合センター：北九州市小倉北区大門1-6-43



11) 【問い合わせ窓口】

- 全定協事務局：0957-23-1332（担当：藤高）

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします） 秋田県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？

大変よかった よかった どちらでもない あまり良くなかった 良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

昨年4月から定着支援センターに従事して、全定協主催の基礎研修で方法論については学んだものの、定着支援センターの根底をなす理念的なものが、自分の中では、曖昧であったが、今回の理念研修でそれをつかみ、今後の活動に活かしたいと思った。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

いままで私たちは、定着支援センターで解決型支援を行ってきたのは、間違いではないか。本来伴走型支援からはじめ、ともに地域で生活できることを目指していくことが、ねらいではなかったか。これを実践からまなば学ばせて頂いた。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

ある ない わからない

個人のケースをパターン化してとらえ、その人の生きざまを見ようとしなかった。研修に参加して、伴走型支援で関係づくりをもっと深めようという気持ちになった。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

必要 必要ない 分からない

(理由など) 他にはこのような研修が無く、各県ごとの研修内容では、ここまではいかないと思う。今回現場を体験しながらの理念研修だったので、その考え方がすんなり身にしみ浸透してきた。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

事務局の長崎県定着支援センターの皆様、開催地のNPO法人抱僕、並びに福岡県定着支援センターの皆様、大変お世話になりました。奥田理事長の懐の深さ、それを支える周囲のスタッフの熱い思いを、直接目の当たりにし、素晴らしい経験になりました。人としての生き方についても色々と考えさせられた研修でした。自ら変わらなければと思いました。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

新潟県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたかがでしたか？

■大変よかった □よかった □どちらでもない □あまり良くなかった □良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

・日々の業務の中で、調整がうまくいかない事や、地域の理解がなかなか得られない事、本人の希望と現実の調整のミスマッチなど、葛藤やジレンマを抱えることが多く、何か日々の実践のヒントを得られたらと思い参加しました。  
・抱撲の取り組みや思いを実際に見て感じたいと思ったため。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

炊き出しとパトロールに参加させていただき、職員や利用者の方がボランティアとして深夜まで活動され、これを30年以上続けてきたことの凄さを感じました。雨の寒い中、遅くまで嫌な顔一つせず、むしろ楽しそうに皆さんが参加されている姿を間近で見ることができ、人の繋がりの大切さや偉大さを感じました。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

■ある □ない □わからない

（理由など）今まで対象者に対しての思いだけで動いていたことが、多かった気がするが、それほあくまで定着の視点、考えであり、地域の人や関係者へのメリットや本人の家族一人一人も本人だという視点など、広く全体を捉えて行かなければいけないということを感じました。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

■必要 □必要ない □分からない

（理由など）  
・基本的な理念や価値はどこのセンターの職員も持ち合わせているとは思いますが、日々の業務の中でついでに他の価値観を優先してしまったり、本人の思いにうまく寄り添えないことも多いと思うが、改めて、理念や価値を確認したり、考えたりすることは必要だと思う。しかし、少人数の研修でどこまで、全体に伝えることができる研修になるか検討は必要だと思った。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

・職員、ボランティア、利用者の表情や雰囲気がとてもよく、垣根のない関係性に人と人との関わりの大切さを改めて感じました。コロナウイルス等の影響で施設見学等が無くなったことはとても残念でしたが、それでも間近で抱撲の取り組みや思いを感じられた事はとても良かったです。忙しい中受け入れてくださった、抱撲の皆様、準備等してくださった事務局の皆様本当にありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

愛知県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？

大変よかった よかった どちらでもない あまり良くなかった 良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

元々、NPO法人抱撲としてホームレス支援をしている団体であることは知っていたものの、どのような活動をしているのかについて、実際の現地において自分の目で見てみたいと思ったことがきっかけです。また、理念研修ということで、当事者である奥田理事長のお話が聴けることも理由です。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

一番と言われると、どれが一番ということは難しいというのが正直な感想です。実際に、炊き出しに参加させて頂き、30年以上もこのような活動をしているということを肌で感じる事が出来たこと。また、現場で経験した者にしか分からないことをお話していただいたこと。特に、最後に奥田理事長がお話されていた「自分自身がどうしたいのか？何を目指していくのか？」という言葉が印象的でした。この言葉は、あの研修以来自分自身の一生の課題のように感じています。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

ある ない わからない

（理由など）

制度や固定概念に囚われることなく、柔軟な考え方や対応が必要であること。また、多角的な意見（福祉的な意見や価値観だけでなく福祉とはかけ離れた方の意見もという意味で）に耳を傾け、色々な可能性や方向性を考慮することが支援には必要であると感じました。これは理念研修に参加する前にはなかった価値観だと感じています。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

必要 必要ない わからない

（理由など）

これは実際に研修に参加して、肌で感じることでしか学ぶことは難しいと考えます。教科書には載っていても、実際には一人一人が感じることや見えているものには違いがあり、それぞれが学び、学んだことを共有する場所が必要であると考えます。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

今後も理念研修は必要だと感じています。NPO法人抱撲での理念研修は今後も続けていただければと思いますが、この研修とは別の企業や法人の理念研修を開催していただければと考えます。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

富山県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？

■大変よかった ☐よかった ☐どちらでもない ☐あまり良くなかった ☐良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

抱樸さんの理念や活動を知りたかったため。炊き出しやパトロールなど活動に触れることにより、自分がどのような気持ちや考えを持つか覚知したかったため。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

炊き出しを体験してみて、様々な方がボランティアをされており、また毛布など様々な物資の提供や弁護士相談なども実施され、ひとりにしない支援を実践されていたこと。これを長きに渡り継続されていることを聞き、こうした寄り添う活動の結果が、多くの方の問題の解決を図っていると思いました。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

☐ある ■ない ☐わからない

（理由など）定着支援センターの役割は、地域への橋渡しの支援であり、地域へ移行すればフォローアップは終了となる。しかし実際はフォローが終了してもつながりは持っており、問題があれば訪問し本人と会い、現在関わっている機関と解決にあたることもある。また帰住した方から手紙などをいただければ、返信するようにしている。今回、研修に参加し座学や炊き出しを通じ、ひとりにせずつながりを持っていようという価値観は同じであると思いました。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

■必要 ☐必要ない ☐分からない

（理由など）支援を行っている中、さまざまな場面で判断しなければいけないことがある。そうしたときになにか指針となる理念があれば、そこから支援を発想していくことができる。研修では新たな価値観に触れたり、さらに自分の考えを振り返ったりするきっかけになるので、必要であると思いました。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

2日目の座学で多問題家族の事例を提供いただき、グループワークを行った。問題を一個人に主体を置かず、家族のそれぞれを主体とし、問題を包括してみる視点が必要であるとのことであった。この点について、現場の中で家族の問題を解決することが、本人の問題を解決することにつながることもあるので、事例の支援はとても参考になった。他、研修名ですが「理念研修」では漠然としているので、「～一人にしない支援を実践している抱樸さんの理念を知る研修～」など副題があればよいと思います。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします） 和歌山県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？

大変よかった よかった どちらでもない あまり良くなかった 良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

抱撲さんの理念を知り、また炊き出しやパトロール活動等を実際に体験してみたいと思ったため。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

炊き出しやパトロール活動の中で、一人ひとりに声を掛け、物資等を手渡し、その方達と対話し向き合っていく姿勢を実際の現場で見れたこと。32年継続することの大切さや、生きづらさを抱えた方達に、寄り添っていく最前線の活動を体感できて良かったです。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

ある ない わからない

（理由など）今回、理念研修に参加したことで、「生きづらさを抱えた方に寄り添う」という意味を改めて考える機会となりました。私達は、対象者を本来、地域で受けられる支援に繋いでいきますが、すべてを任せていくのではなく、対象者に何か問題等があれば関わり、これからも付かず離れず支援することで、細く長く繋がっていきたくと改めて再認識できました。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

必要 必要ない 分からない

（理由など）定着職員の実験年数も3年未満が多くなっている現状や、受託法人が変わる定着もある為、生きづらさを抱えた方たちに向き合ってきた方の関わり等を早期段階で知り、学ぶことが出来れば、実際の支援現場において、不安感を抱いたり、支援で迷った時に振り返ることが出来ます。今後の支援現場でも必要な事であり、他定着職員にも体感して頂きたいと思いました。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

2日間の研修で、人との出会い、繋がり続ける事の大切さを肌身に感じる事が出来ました。貴重な経験をさせて頂き有難うございました。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

奈良県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていかがでしたか？

大変よかった よかった どちらでもない あまり良くなかった 良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

「抱撲」の奥田理事長さんの講演を拝聴した事があり、もっとお話を聞いてみたいと思いました。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

教会の中の、天窗からの日差しが射しこむ、骨壺がおさめられている部屋に入らせていただいたことです

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

ある ない わからない

（理由など）

雷に打たれたような衝撃的価値観の変化はありませんでしたが、強い信念を持って長年活動されている方々のお話をお聞きし、自分は普段どのような価値観で仕事をしているのかを内省し、自分の価値観について再確認する機会が必要だと考えました。社会福祉士の仕事に対する価値観は「社会福祉士の倫理綱領」に基づいていると考えております。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

必要 必要ない 分からない

（理由など）

長年活動されている方々のお話を聞き、実際の場に行く事は、経験を広げ、深める機会となります。理論上の価値観、理念ではなく、経験して実感した中からの価値観、理念は大切だと考えます。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

新型コロナウイルスの影響の中、企画、準備、運営に大変ご苦労をおかけいたしました。ありがとうございました。私個人の反省ですが、雨天の炊出し後のパトロールに参加しなかった事です。雨に濡れて夜に野外で活動する事に、「もし風邪の症状がでたら、月曜日から数日は仕事が出来なくなるリスクがある。」と、考えました。おかげさまで、今週も元気に働いております。大変お世話になり、ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

滋賀県地域生活定着支援センター

<b>1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり良くなかった <input type="checkbox"/> 良くなかった
<b>2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？</b>
日々の相談業務の中で難しさを感じることもあり、実践を支える基本的な考え方や価値を学びたいと思ったから。 抱撲のとりくみや、伴走型支援に興味があったから。
<b>3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？</b>
小倉駅周辺でのパトロール。事件をきっかけに定着とつながる相談者の方も、事件の前はホームレスをしていたという方がおり、当時の生活状況についてイメージを膨らませることができた。 ホームレス状態の方に30年以上も寄り添う抱撲の支援を少しだけ体験することができてよかった。
<b>4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> わからない
（理由など） 研修前は、支援中の方が再犯をするとやるせなさを感じてしまうことがあった。今回の研修で伴走型支援の考え方を学んだことで、刑務所へ行ってしまったとしても「ひとりにしない」ことの大切さや、つながり続けることの意味を感じることができた。前向きな気持ちになれた。
<b>5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 必要ない <input type="checkbox"/> 分からない
（理由など） 実践の中で困ったり、難しさを感じたときほど理念や価値観に立ち返ることが大切だと感じた。
<b>6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。</b>
貴重な研修をしていただき、ありがとうございました。 研修で学んだことを実践で発揮できるように励みたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

沖縄県地域生活定着支援センター

<b>1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり良くなかった <input type="checkbox"/> 良くなかった
<b>2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？</b>
定着の存在が本人に元刑務所入所者という看板を背負わせ続けているのではないか、いつまでも過去を乗り越えさせきれていないのではないかなど等の悩みを抱える時もありましたが、定着は人と人、心と心をつなげていく支援をする仕事だと思い、務めてきました。職員となって2年6カ月が経過した今もう一度、対象者や地域の関係者と向き合う上での支援員としての信念や覚悟を見つめ直したいと思い、参加しました。
<b>3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？</b>
「その人がその人らしく生活できるための支援」「相手のフィールドで向き合い、話すことはできているか」という言葉には、自分のこれまでの支援や姿勢を見つめ直させてもらいました。地域の関係者からの求めもあり、心では「本人のため」と思っているが、「どうしたら再犯しないだろうか」という視点を中心に生活環境を設定してしまっていたことや、本人の気持ちや悩み、生きづらさを本人と同じ目線で考えること、本人が話しやすい本人のフィールドに入っていくこと等に気づかされました。
<b>4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> わからない
（理由など） 炊き出しや夜間パトロールに同行して、職員やボランティアの方々がホームレスの方々に寄り添いながら、つながりを持ち続けようとする姿勢やパトロール中に出会うホームレスっぽい人を見極める職員の判断力、積極的に声を掛けて相手のフィールドに踏み込む勇気などを現場で見ることができたのは、大きな財産になりました。「人は一人では生きていけない」という言葉をリアルな現場で感じられたことは、今後の私の人生をはじめ、支援者としての信念や価値観を変えるものになりました。
<b>5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 必要ない <input type="checkbox"/> 分からない
（理由など） 各県で奮闘している経験の浅い職員にとって一番悩んで不安な事は、支援計画への自信のなさや相手の気持ちに入っていく一歩を踏み出し切れないことだと思うので、ぜひ初心者研修等でも支援者としての信念や対象者との向き合う姿勢(心)を学べる機会を確保して欲しいと思い、必要と回答しました。 初心者研修の項目に「定着の支援とは?」「どんな信念を持っているのか支援してる?」等を共有する時間を設け、各初心者の気持ちに奥田氏等に伝えていただく形式を組み入れてもらおうと、初心者も自信が付き、向き合い方を意識しながら支援できるのではないかなと思いました。 また、職員を支える管理職等にも学んでいただき、その人らしさを輝かせるための支援方法を一緒に考えて頂く土壌を全国のセンターにつくっていきけるといいかもしれないと感じました。
<b>6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。</b>
抱樸や全定協事務局、福岡定着の皆様には、お忙しい中、研修会の準備等をしていただき、ありがとうございました。大変、心の深い所にグッと押し寄せるものを得ることができました。当県センターに持ち帰って活かしていきたいと思えます。 抱樸で行う理念を学ぶ研修は年に1度が限度であると思いますが、初心者や中堅者研修等でも懇親会ではなく、研修内容として理念を見つめ直す座談会やグループディスカッションは開催していただきたいと思いました。 地域ごとに利用できる資源は違えど、同じ定着支援事業に関わる職員としての信念や姿勢は共通するものがあると思えますし、常にみんな悩みながら向き合っていると思うので、一緒に戦っている仲間がいることを認識することは大事だと思います。職員一人一人が”人材”から”人財”になっていけると、さらに定着支援センターの業務が楽しいものになっていくのではないかと思います。 研修会、ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

長崎県地域生活定着支援センター

1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？

大変よかった よかった どちらでもない あまり良くなかった 良くなかった

2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？

「抱樸」が取り組んできたホームレス支援を通じた支援の在り方を学び、今後の支援に生かしたいと思い参加した。また、夜間に行われる炊き出しやパトロールがどのような形で運営されているかを体験したかった。

3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？

炊き出しには職員はもとより、多くのボランティアが参加していることまた、夜間パトロール時、ホームレスの方へ地面に腰を下ろし、同じ目線で話を聴く寄り添う態度が奥田さんの考え方が浸透していることが理解できた。

4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？

ある ない わからない

（理由など）

変化があるかどうかはわからないが、32年間の継続した支援を目の当たりにし、「続けていく・継続する」大切さを改めて感じた。

5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？

必要 必要ない 分からない

（理由など）

所属法人の考え方が支援にも影響すると思うので、新しい考え方を学ぶ意味でも継続して欲しい。また、考え方を浸透させる意味でももう少し長期にわたる研修でもよいと思った。

6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。

奥田理事長が述べられた、「支援には問題解決型支援と伴走型支援の両輪が必要」との言葉とても印象的だった。今後自分の支援にも「寄り添う」をもっと意識し、支援に取り組んでいきたい。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

長崎県地域生活定着支援センター

<b>1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり良くなかった <input type="checkbox"/> 良くなかった
<b>2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？</b>
奥田さんが30年間続けられている、アウトリーチの現場を体感したかった。
<b>3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？</b>
抱樸の職員さんや自立された方々がボランティアとして参加されている方に参加の理由を尋ねても、皆さん「なんでかな〜。」「原点だから…？」と特に明確な理由は言われませんでした。それでもやり続けられていること。まさに、解決型の思考だけではできない、伴走型の支援であることを実感しました。
<b>4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> わからない
(理由など) 抱樸さんの理念（ひとりにしないという支援、それを支えるのは人）に触れたことで、定着事業の成り立ちや理念を理解したうえで日常業務に取り組んでいるつもりでしたが、それがいかにつもりであり、支援者中心の支援であったかということに改めて気づかされました。 定着支援センターの業務は問題解決型の視点を求められることが多いですが、その中でも「なんのためにやっているのか」という原点を見失わず、問題解決型と伴走型の両輪で考え続けていきたいと思えます。
<b>5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 必要ない <input type="checkbox"/> 分からない
(理由など) 活動拠点に出向くことで、フィールドワークを通し座学だけでは体感できないことがあることや、奥田さんと一緒に活動されている属性の近い方と一緒に活動できることは、とても刺激になります。
<b>6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。</b>
二日間の研修を思い返し咀嚼すればするほど、自分がいかに原点や理念を疎かにしていたか恥ずかしくなります。まだ、咀嚼している段階で、迷いや明確でないこともあります。それは走り続けながら見つけていきたいと思えます。

ご協力ありがとうございました。

令和元年度 厚生労働省 社会福祉事業  
一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会 理念研修  
アンケート

令和2年2月29日

今回、全定協では初めて理念研修を実施しました。ぜひ、参加者の皆さんのお声をお聞かせ下さい!

研修内容について（項目に☑をお願いします）

鳥取県社会生活自立支援センター

<b>1. 今回、理念研修に参加されていたいかがでしたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり良くなかった <input type="checkbox"/> 良くなかった
<b>2. 理念研修に参加してみようと思った動機はなんですか？</b>
実践でのモチベーションを強化するため。 対人援助に対する向き合い方を考えるため。
<b>3. 理念研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか？</b>
対人援助、伴走型支援は、たくさんの人とつながること。 問題解決ばかりに目を向けて、対象者の気持ちを無視しないようにする。
<b>4. 理念研修の参加前・参加後で、あなた自身の価値観に変化はありましたか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> わからない (理由など) 定着の支援は、いつかは相手の中から消えることが、本当の意味で良い状態なんだと思っていたが、今回の研修を受けて、相手の中に存在することで、その先につながる支援の大切さを学べたように感じました。
<b>5. このような、生きづらさを抱えた方たちと向き合い続けていくための理念や価値観を学ぶ理念研修は、今後も必要だと思いますか？</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 必要ない <input type="checkbox"/> 分からない (理由など) 基本に立ちかえるためにも、継続してほしいと思います。
<b>6. その他、感想・要望等があればご自由に記載下さい。</b>
人とのかわりの中で、何が正しいのか迷うときが多々あります。 この仕事を続けていく上で、自分のメンタルトレーニングする機会があるといいなと思いました。

ご協力ありがとうございました。

# 全定協理念研修 伴走型支援

NPO法人 ホームレス支援全国ネット

NPO法人 抱樸

生活困窮者自立支援全国ネット

全国居住支援法人協議会

公益財団法人 共生地域創造財団

東八幡キリスト教会

代表 奥田知志



# 自己紹介

## NPO抱樸とは？



# NPO法人抱樸 概要

- ・活動開始1988年 **32年目**
  - ・ホームレスからの自立 3500人(居宅設置等)
  - ・**自立達成率 93%**(6ヶ月の自立プログラム)
  - ・**生活継続率 92%**
  - ・**就労自立率 58%**
  - ・生活サポート実施 約2000名(北九州・福岡・下関)
  - ・北九州市・下関市・福岡市・中間市に拠点
  - ・有給職員104名(正規職員70名)
  - ・**登録ボランティア約1500名**
  - ・**互助会約280名**(当事者約160名)
- ※22部署により **包括的総合支援を実施**(以下主な事業)

抱樸(ほうぼく)とは？(老子のことば)

①樸のまま抱く 樸⇒荒木・原木

製材され整えられたら受け取る……手遅れ

原木がそのまま抱き止められること

⇒申請主義・自己責任⇒対応しない理由

「何で相談もっと早く相談しなかったの」困窮者⇒相談しない

助けてと言えない4つの理由

②抱き止められた原木には可能性がある

「パターンリズム」でもなく、単純な「当事者主体」でもなく

原木は、いつか杖となり、家具となる。役割を果たす

⇒時の概念が重要……待つことを可能にさせるもの

二つの時……「クロノス」と「カイロス」

※「答えは間にある」

③絆は、傷を含む

原木であるゆえに刺々しくもある。抱く者は時には傷つく。

「絆は、傷を含む」……傷ついても抱いてくれる人がいるか？

※社会とはより多くの人々が健全に傷つくための仕組み

## 抱樸館（ほうぼくかん）由来

みんな抱（いだ）かれていた。眠っているに過ぎなかった。泣いていただけだった。これといった特技もなく力もなかった。重みのままに身を委ね、ただ抱かれていた。それでよかった。人は、そうしてはじまったのだ。ここは再びはじまる場所。傷つき、疲れた人々が今一度抱かれる場所—抱樸館。

人生の旅の終わり。人は同じところへ戻ってくる。抱かれる場所へ。人は、最期に誰かに抱かれて逝かねばなるまい。ここは終焉の地。人がはじめにもどる地—抱樸館。

「素を見し樸を抱き」—老子の言葉。「樸（ぼく）」は荒木（あらき）。すなわち原木の意。「抱樸」とは、原木・荒木を抱きとめること。抱樸館は原木を抱き合う人々の家。山から伐り出された原木は不格好で、そのままではとても使えそうにない。

だが荒木が捨て置かれず抱かれる時、希望の光は再び宿る。抱かれた原木・樸は、やがて柱となり、梁となり、家具となり、人の住処となる。杖となり、楯となり、道具となって誰かの助けとなる。芸術品になり、楽器となって人をなごませる。原木・樸はそんな可能性を備えている。まだ見ぬ事実を見る者は、今日、樸を抱き続ける。抱かれた樸が明日の自分を夢見る。

しかし樸は、荒木である故に少々持ちにくく扱い辛くもある。時にはささくれ立ち、棘とげしい。そんな樸を抱く者たちは、棘に傷つき血を流す。だが傷を負っても抱いてくれる人が私たちに必要なのだ。樸のために誰かが血を流す時、樸はいやされる。その時、樸は新しい可能性を体現する者となる。私のために傷つき血を流してくれるあなたは、私のホームだ。

樸を抱く—「抱樸」こそが、今日の世界が失いつつある「ホーム」を創ることとなる。ホームを失ったあらゆる人々に今呼びかける。「ここにホームがある。ここに抱樸館がある」



出会いから六年  
彼が立ち上がるの  
に必要なものは？

なぜ、彼らは  
助けてと言わなかったのか

# 助けてと言わない4つの理由

- ①知らない⇒教えてくれる人・つないでくれる人
  - ②孤立—自己認知障害⇒他者の存在
  - ③自己責任論社会自分しかない  
⇒助けてくれる人
  - ④生きる意欲⇒意欲を与えるのは他者
- 人は何のために働くの⇒人は誰のために働くのか

**伴走型支援(伴走者)の必要性**

断らない相談—問題解決型支援の場合

引き受ける = 問題解決する

しかし問題解決不可の場合

= 引き受けない

※問題解決型支援の限界

# 断らないとバーンアウトする！？

社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会報告書（平成29年12月15日）

（断らない相談支援）

「自立相談支援事業のあり方としては、相談者を「断らず」、広く受け止めることが必要であり、生活困窮者自立支援法において、「現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者」とされている生活困窮者の定義のもとで、「断らない」支援の実践が目標とされているが、こうした「断らない」相談支援については、今後とも徹底していかなければならない。」

「また、『断らない』相談を継続するために、相談を受け止める相談支援員がバーンアウトしないよう、スーパービジョンやフォローアップ研修等が必要との意見があった。」

どうする？

「断らないとバーンアウトする」問題

支援論問題⇒問題解決型支援のみの世界

断らない=引き受ける=問題解決?????

すぐには解決できないこともある。

さらに問題解決型の副作用も…

成果主義、生産性、クリームスキミング

良いホームレスと悪いホームレス

当事者の絶望と職員のバーンアウト

※新しい支援論が必要！

# これまでの支援論の流れ

- ① **パターナリズム・父権主義的支援**
  - ⇒ **温情的庇護主義**
  - ⇒ **専門家独占と支配**
- ② **当事者主体の尊重**
  - ⇒ **インフォームドコンセント**
  - ⇒ **セカンドオピニオン**
  - ⇒ **べてるの家・当事者研究「私が私の専門家」**
  - ⇒ **しかし、社会的孤立が進行・・・自己認知障害**
  - ⇒ **助けてと言えない理由？**

断らない相談—**伴走型支援の場合**

断らない

=引き受ける

≠解決する（できない）

=つながる

**孤立が前提**⇒伴走型支援はアウトリーチから

伴走は、第二の道か—解決できない場合の第二の道？

孤立者に関しては**第一の道！**

---

# これからの支援の両軸

1) 問題解決型支援の目的

⇒ **解決**

2) 伴走型支援の目的

⇒ **伴走** (つながる・つなげる)

# もう一つの支援論⇒伴走型支援

⇒第二、第三の危機の時代

その日誰に「助けて」と言えるか？

⇒孤立に着目・・・**つながること**が目的

⇒失敗する権利

ガードレール型でなく**セーフティーネット型**

⇒ピンチは「**つながい**」創造のチャンス

※再犯防止ではなく**再再犯防止**

⇒答え(解決)は間にある

# 地域共生社会の三つの事業

## ①断らない相談支援

- 介護(地域支援事業)、障害(地域生活支援事業)、子ども(利用者支援事業)、困窮(生活困窮者自立相談支援事業)の相談支援に係る事業を一体として実施し、本人・世帯の属性にかかわらず受け止める、断らない相談支援の実施

## ②参加支援

(社会とのつながりや参加の支援)

- 「断らない相談支援」と一体的に行う、就労支援、居住支援、居場所機能の提供など、多様な社会参加に向けた支援の実施

## ③地域づくりに向けた支援

- 地域において多様なつながりが育つことを支援するために、
  - ①住民同士が出会い参加することのできる場や居場所の確保に向けた支援
  - ②ケアし支え合う関係性を広げ、交流・参加・学びの機会を生み出すコーディネート機能 を合わせた事業を実施

つまり、  
ひとりにしない！  
ということ

# 見えてきた問題

- ①複合的課題
- ②制度の縦割り
- ③社会的孤立
- ④家族機能の低下
- ⑤地域無縁化

伴走型支援の  
ステージ

断らない相談—問題解決型支援の場合

引き受ける = 問題解決する

しかし問題解決不可の場合

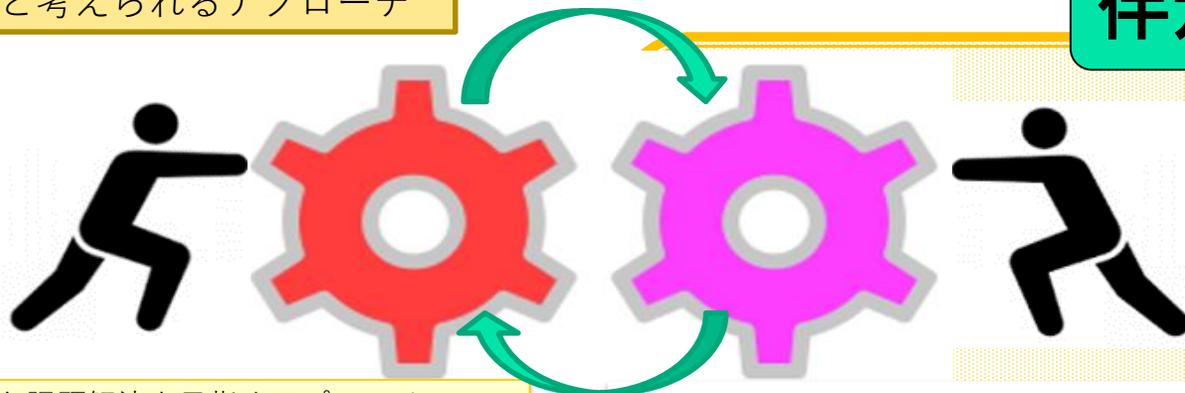
= 引き受けない

※問題解決型支援の限界

厚労省が提唱してきた孤立に着目した伴走型支援が  
厚労省の次年度施策に明記された。

## 対人支援において今後求められるアプローチ

支援の“両輪”と考えられるアプローチ



伴走型支援

具体的な課題解決を目指すアプローチ

- 本人が有する特定の課題を解決することを目指す
- それぞれの属性や課題に対応するための支援(現金・現物給付)を重視することが多い
- 本人の抱える課題や必要な対応が明らかな場合には、特に有効

つながり続けることを目指すアプローチ

- 本人と支援者が継続的につながることを目指す
- 暮らし全体と人生の時間軸をとらえ、本人と支援者が継続的につながり関わるための相談支援(手続的給付)を重視
- 生きづらさの背景が明らかでない場合や、8050問題など課題が複合化した場合、ライフステージの変化に応じた柔軟な支援が必要な場合に、特に有効

共通の基盤

本人を中心として、“伴走”する意識

個人が自律的な生活を継続できるよう、本人の意向や取り巻く状況に合わせ、2つのアプローチを組み合わせ合わせていくことが必要。

厚生労働省令和元年12月  
地域共生社会推進検討会議最終まとめ



最初の気付き

ハウスレスと

ホームレス

①1990年初めての居宅設置

②当時の問題意識

⇒住居と仕事(生活保護)の支援

③半年足らずでゴミ屋敷化

④何が問題か？

⑤自立が**孤立に終わる**

⑥路上:畳の上で死にたい

⇒自立後:俺の最期は**誰が**看取ってくれるか

## ⑦二つの困窮

ハウスレス(経済的困窮)と

ホームレス(社会的孤立)

※ハウスとホームは違う

⑧30年・・・時代が路上に追いついた

⇒襲撃事件・・・「帰るところが無い」

「心配してくれる人がいない」

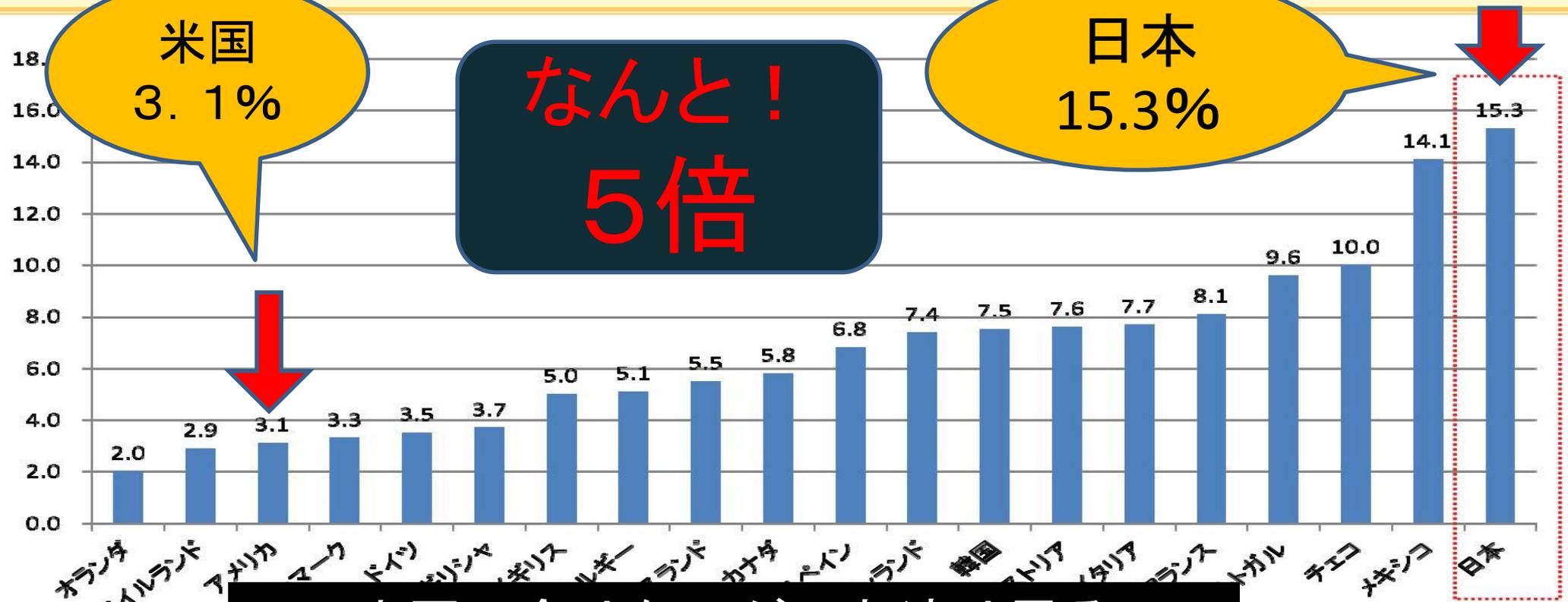
⑨自立と参加⇒参加と自立

# 社会的孤立の調査 OECD諸国の比較

※相対的貧困率(2012年) 米国17.4% 日本16.1%

## 「家族以外の人」と交流のない人の割合(国際比較)

○ 日本では「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が15.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。



(注)友人、職場の同僚との交流が、「全くない」

米国⇒金はないが、友達はある  
日本⇒金もないが、友達もいない

「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が15.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。  
Glance:2005 edition,2005,p8

# 2018年1月18日英国「孤独問題担当大臣」新設

**国家損失年間4.9兆円（320億ポンド）**

**英国の孤立率 5%（日本15.3%）**

◆赤十字社など13の福祉団体連携⇒2017年に約1年間かけて調査実施

◆孤独の実態

①英国（6500万人）で900万人以上が「常に」あるいは「しばしば」孤独感あり

②内3分の2が「生きづらさ」感あり

③月に一回会話なし高齢者が20万人

④身体障害者の4人に1人が日常的「孤独」

⑤子どもを持つ親の4分の1が「常に、しばしば孤独」

⑥400万人以上の子どもが「孤独」でチャイルドライン（相談窓口）に相談

⑦「孤独が人の肉体的、精神的健康を損なう」と警告。

**※孤独の健康被害⇒肥満・一日に15本喫煙よりも有害**

# 孤立の現実と課題

①英国対比      日本・・・人口約2倍      孤立率・・・約3倍

※単純計算で30兆円の国家損失

②英国医療現場⇒『Social prescribing(社会的処方)』

『薬』ではなく『社会関係』(の改善策)を処方する・・・医療費20%縮小

③三木清「人生論ノート」から・・・**孤独は街にある**

「孤独といふのは獨居のことではない。獨居は孤独の一つの条件に過ぎず、しかもその外的な条件である。むしろひとは孤独を逃れるために獨居しきへするのである。」

「**孤独は山になく、街にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の『間』にあるのである。**孤独は『間』にあるものとして空間の如きものである。「真空の恐怖」—それは物質のものでなくて人間のものである。」

## 問題解決型支援・・・一点集中型「アリの目」

⇒人を問題で捉える・属性で判断

⇒アセスメントから**プラン作成**

⇒支援開始から支援終了

## 伴走型支援・・・「全人」と捉える「鳥の目」

⇒アセスメントよりも**「記録」**

⇒問題可決でなく**「その人とのつながり」**

⇒終わりになき支援・**日常化**

# 支援における時間の問題

## ■問題解決型支援における時間

「クロノス」 (Χρόνος) ・ ・ ・ 時間

⇒時計の時間

⇒計画・プラン・予定

⇒支援開始から支援終了まで

## ■伴走型支援の時間

「カイロス」 (καιρός) ・ ・ ・ 時

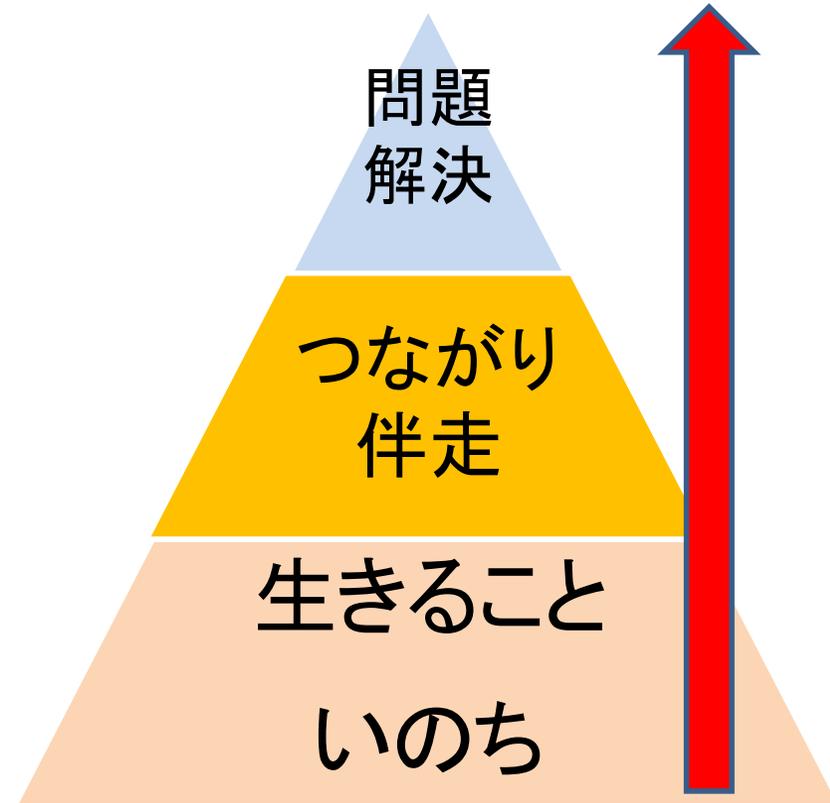
⇒生まれる時・死ぬとき、花が咲く、さなぎが蝶に

⇒その「時」

⇒伴走型支援は、「時」に合わせる・待つ

# 伴走型支援

- ① **目的としての伴走型支援**
  - ⇒ 伴走・つながることが目的
  - ⇒ 問題解決しなくても成立
- ② **手法としての伴走型支援**
  - ⇒ 問題解決が目的
  - ⇒ 対峙型から伴走型へ



※ 二つの支援の併用が大事だが、**目的としての伴走型支援が前提**でないと問題解決型は成立しない

# 問題解決型支援

ステージ⇒非日常

支援者の存在

「支援」という言葉の限界

⇒「あなたはそのままではダメ」

と言いつづけている状態

# 伴走型支援支援

ステージ⇒日常 支援者の本質⇒友達

# 伴走と感情について

■従来の専門職⇒クライアントとの距離

支配（パターナリズム）や丸抱えを防ぐ  
問題解決型においては重要

■伴走型支援⇒つながり重視、支援者より友人・なんちゃって家族

■感情の介在を肯定的に理解する・・・感情を創造のモメントとする

⇒感情を仕組みに変える・・・伴走型支援

⇒しかし、人としての感情抜きではダメ

⇒感情とは

1) 他人ごとから自分ごと

2) 弱さ、貧しさ・・・罪ある存在・赦されて生きている

3) 構造の中で生きている・・・時代の子

4) いのちの普遍性

■伴走型支援は危険

「仕組みにする」の意味⇒チームが前提

# 伴走型支援にける専門職の役割

① 孤立の壁の突破

⇒ 質的支援

② つながりのコーディネートと共生地域

⇒ 量的支援

③ つなぎもどしの継続的行使

⇒ 線の支援

■問題解決型支援⇒アセスメントとプラン中心

主訴の明確化⇒焦点化・人を問題で捉える

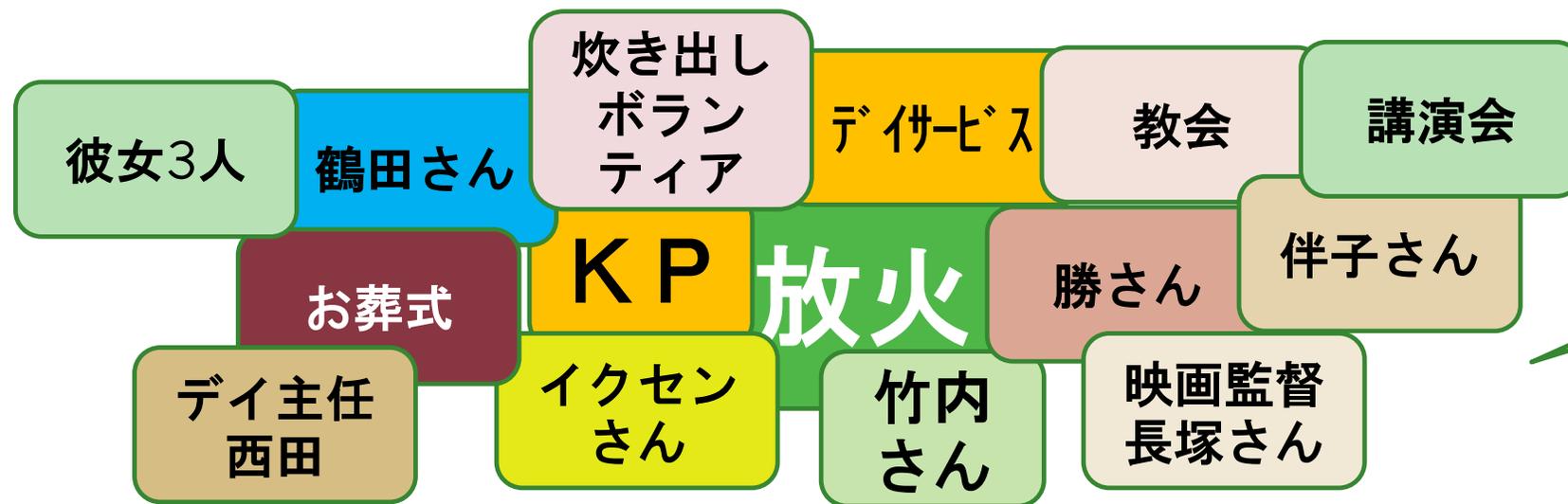
■伴走型支援 その人全体で捉える

ごまかしの支援⇒質より量・相対化

相対化⇒つながり・ステージ・関心を増やす

例) 前科11犯放火 第一段階専門職に因るケース会議

第二段階（日常化）・・・相対化・質より量



ごまかす

■伴走型支援  
⇒つながりの支援

■つながり  
⇒他者の存在

■伴走型の成果  
⇒その人の中に何人の他者が存在するか。

※他者が生きる意味や倫理を与える



二〇一六年七月 抱樸デイケアにて  
七夕短冊作成

「自分のしあわせ みんなのしあわせ」

福田九右衛門

# 多機関連携の意味

## 第一の意味

専門職・制度による問題解決

## 第二の意味

人連携・不安にならない

## 第三の意味

多角化・価値創造

伴走型支援

## ■ 伴走支援の第一の理念

「人(であること)を大切にする支援—弱さを前提とする支援」

⇒ 新学期が来るのが怖い

⇒ なぜ、子どもたちは助けてと言えないのか？

⇒ 大人社会の問題

⇒ 助けてと言えない理由

⇒ 人間とは何か？      カレン・ローゼンバーグの進化論

※ 困窮者支援の目的

「助けて」と言える人づくり 「助けて」と言える社会づくり

※ 自立と依存は、対立概念化か？

自立と依存は対概念……自立の反対は孤立

ひとりであることと共に生きることの関係

ひとりになれる⇔共にいることができる

**おまけのおまけのはなし**

**伴走支援**

**その他のコツ！**

- ①質より量—太いロープより100本の糸。5回でだめなら6回
- ②焦点化させない—ごまかしの支援・相対化
- ③アンカーポイント—揺れること必然
- ④プラスの次はマイナス—急に止めると壊れる⇒ガラスの振り子
- ⑤「そんなことぐらいある。人間だから」が大前提
- ⑥問題解決よりも生きること—大事と小事の見分け・僕は、凄い親父達を見てきた！
- ⑦「助けて」のインプシを！—とにかく「助けて」を常態化し、慣れておくこと。助けての町づくり。
- ⑧答えは間にある—パターンリズムでも、無責任な当事者主体でもない
- ⑨引き受けられないけど切らない—問題解決よりつながること
- ⑩覚悟と工夫は必要—共生の意味は「断らない」こと
- ⑪感情を仕組みに変える—怒りは大事、でも怒りに終わらせない
- ⑫信じることは大事—神様はどうでもいいいのちをお創りになられるほどお暇ではないと意地でも信じる・神様はいてもらわないと困る

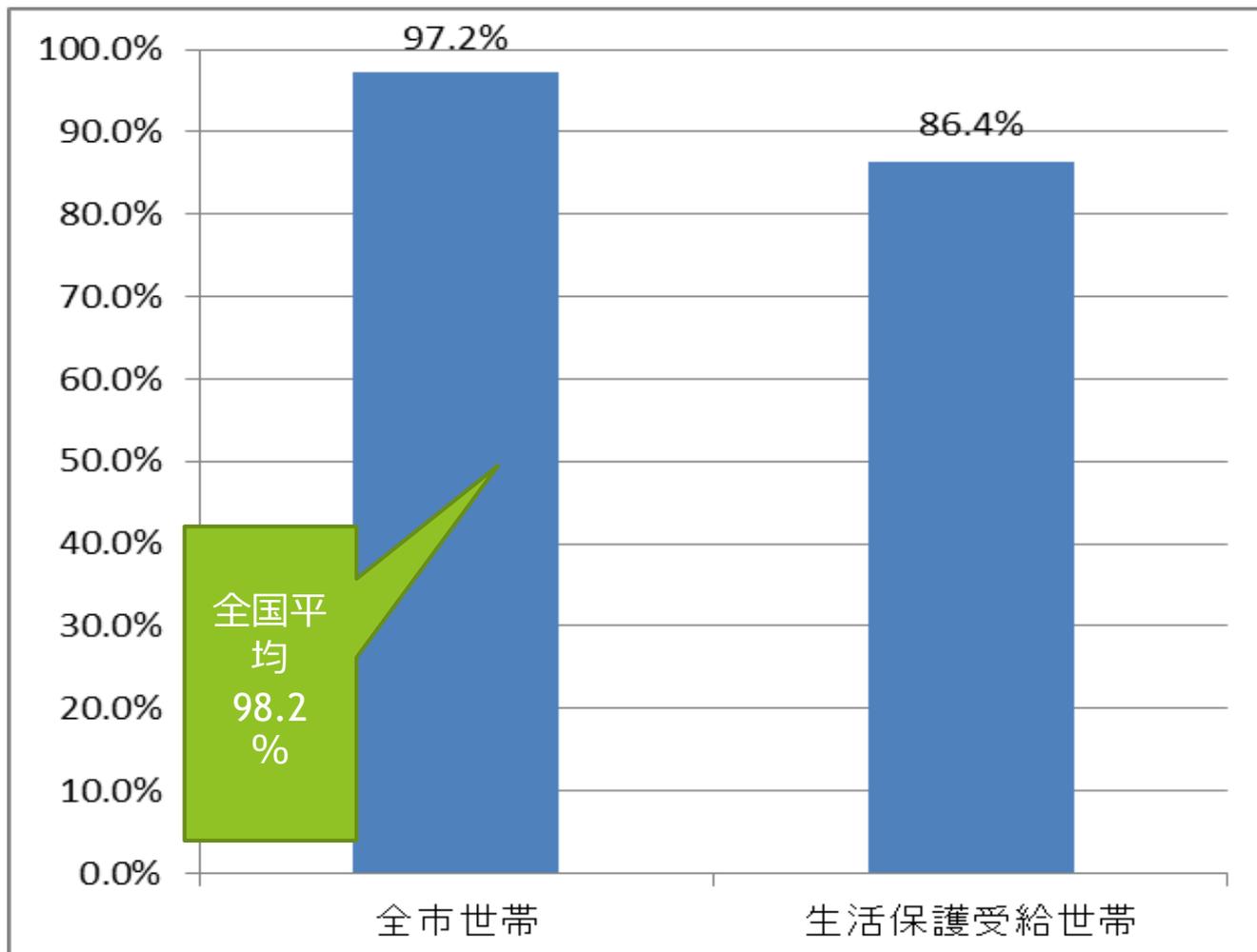
**伴走型支援**

**物語化の支援**

# 新たな貧困のスパイラルを想定する

## ① 金の切れ目が縁の切れ目

### 経済的困窮から社会的孤立へ



生活保護世帯の子ども数・進学率－北九州市

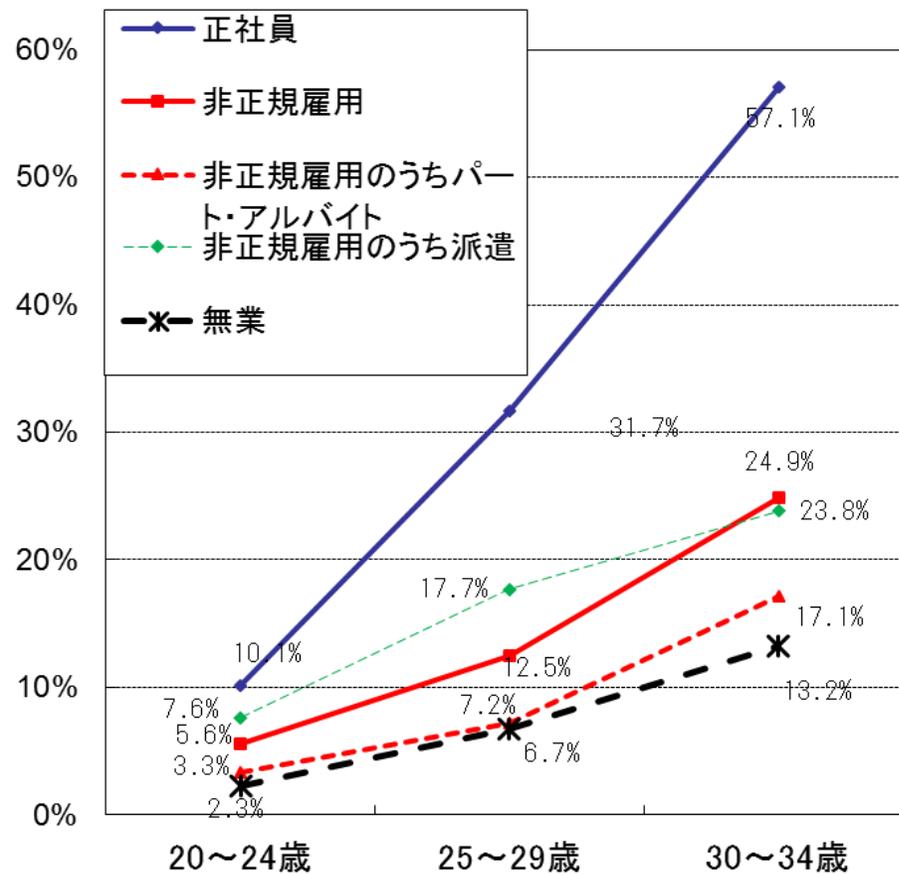
出典：北九州市保健福祉局保護課

# 正規雇用と非正規雇用の賃金格差と社会参加

正規雇用と非正規雇用の1人当たり平均給与

	平均給与		
		うち正規	うち非正規
計	408万円	468万円	168万円
男	502万円	521万円	226万円
女	268万円	350万円	144万円

就労形態別配偶者のいる割合(男性)



# 新たな貧困のスパイラル

## ②縁の切れ目が金の切れ目

⇒西原さんが野宿（11年間）になった理由

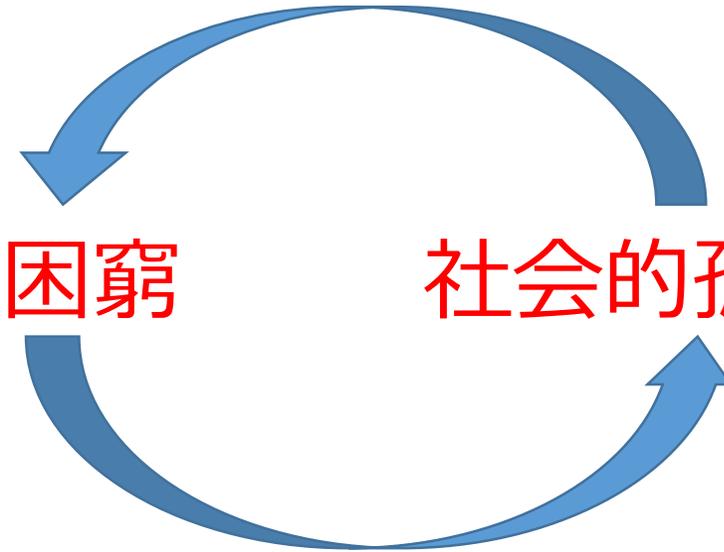
「考えてみたら母ちゃんが出て行ったことかなあ」

人は、何のために働くのか

⇒誰のための働くのか

経済的困窮

社会的孤立



※生きる・働く意味（物語）を与えるのは他者（性）

# 物語る支援—人は『誰のために』生きるのか

伴走型支援とは⇒物が物語となる支援

働く意味とは・・・食べるために働く？

⇒炊き出しの弁当と残飯の弁当（エサ）の違い

⇒物に人が関わることで物語化させる

⇒物語への参与が社会創造

⇒生活保護における身内支援の可能性

※ある母子家庭との出会い

⇒何を食べたかではなく、誰と食べたか

---

**伴走型支援の家族モデル**

**家族機能の社会化**

**社会的相続**

# 伴走型支援における家族モデル

## ……家族機能の社会が必要な理由

### ■ 1987年英国首相のサッチャー「サッチャニズム」

「皆が自分の問題を社会に投げつけるのです。しかし社会というものはありません。個人だけが、男と女だけが、家族だけが存在するのです」

(Prime minister Margaret Thatcher, talking to Women's Own magazine, October 31 1987)

### ■ 自己責任・身内の責任へ……自己責任も身内の責任も限界

例) 引きこもり……日本独自の現象

「子殺し」の時代

住宅確保要配慮者……高齢単身者

### ■ 家族機能をいかにして社会化するか

制度的手当

地域共生社会における受け皿

# 社会保障とは？

最低生活の維持を目的として、国民所得の再分配機能を利用し国家がすべての国民に最低水準を確保させる政策

【公的制度以外の社会保障の担い手】

①家族

②企業にける家族政策的側面（扶養手当・退職金・住宅等）

③地域における互助的機能

いわゆる血縁、地縁、社縁の部分の脆弱化（無縁化）

対策⇒公的制度を拡充することは当然。

しかし、それだけで、大丈夫？

## 例えば、子どもの貧困の場合

■子どもの貧困率 13.9%

■相対的貧困率とは？

ある国や地域の大多数よりも貧しい相対的貧困者の全人口に占める比率(OECD:経済協力開発機構)

■**等価可処分所得**(世帯の可処分所得を世帯人数の平方根で割って算出)が全人口の中央値の半分未満の世帯員を相対的貧困者とする。

※収入で換算                    ※世帯の人数で割っている

※子どもの貧困は、親の収入に因る

NPO抱樸 **子ども・家族MARUGOTOプロジェクト**

# 2018年3月目黒区児童虐待死事件

2018年3月東京都目黒区

度重なる虐待を受け女兒（当時5歳）が死亡。両親逮捕

「パパとママにいわれなくてもしっかりと  
じぶんからもっともときょうよりかあしたは  
できるようにするから  
もうおねがいゆるしてください  
おねがいします  
ほんとうにおなじことはしません  
ゆるして」

「きのうぜんぜんできなかったこと  
これまでまいにちやっていたことをなおす  
これまでどんだけ  
あほみたいにあそんだか  
あそぶってあほみただから もうぜったいやらないからね  
ぜったいやくそくします」



# 家族幻想と社会的相続

まるごと支援で見たこと

⇒なぜ、お母さんなのにお弁当を創らないの

⇒なぜ、お父さんなの子どもと遊ばないの

しかし、現実には……家族幻想

……その両親は、どんな育てられ方をしたのか？

**空っぽのコップ**という現実

社会的相続⇒「『自立する力』の伝達行為」

「社会的」の意味⇒まるごとプロジェクト 親の料理教室実施

親は多い方が良い……生みの親、育ての親、道親、名づけ親

家族はいるか？ではなく、家族になるか？

イエスの言葉……「愛は関係概念」 ※私も相続をしている

# Y子との出会い

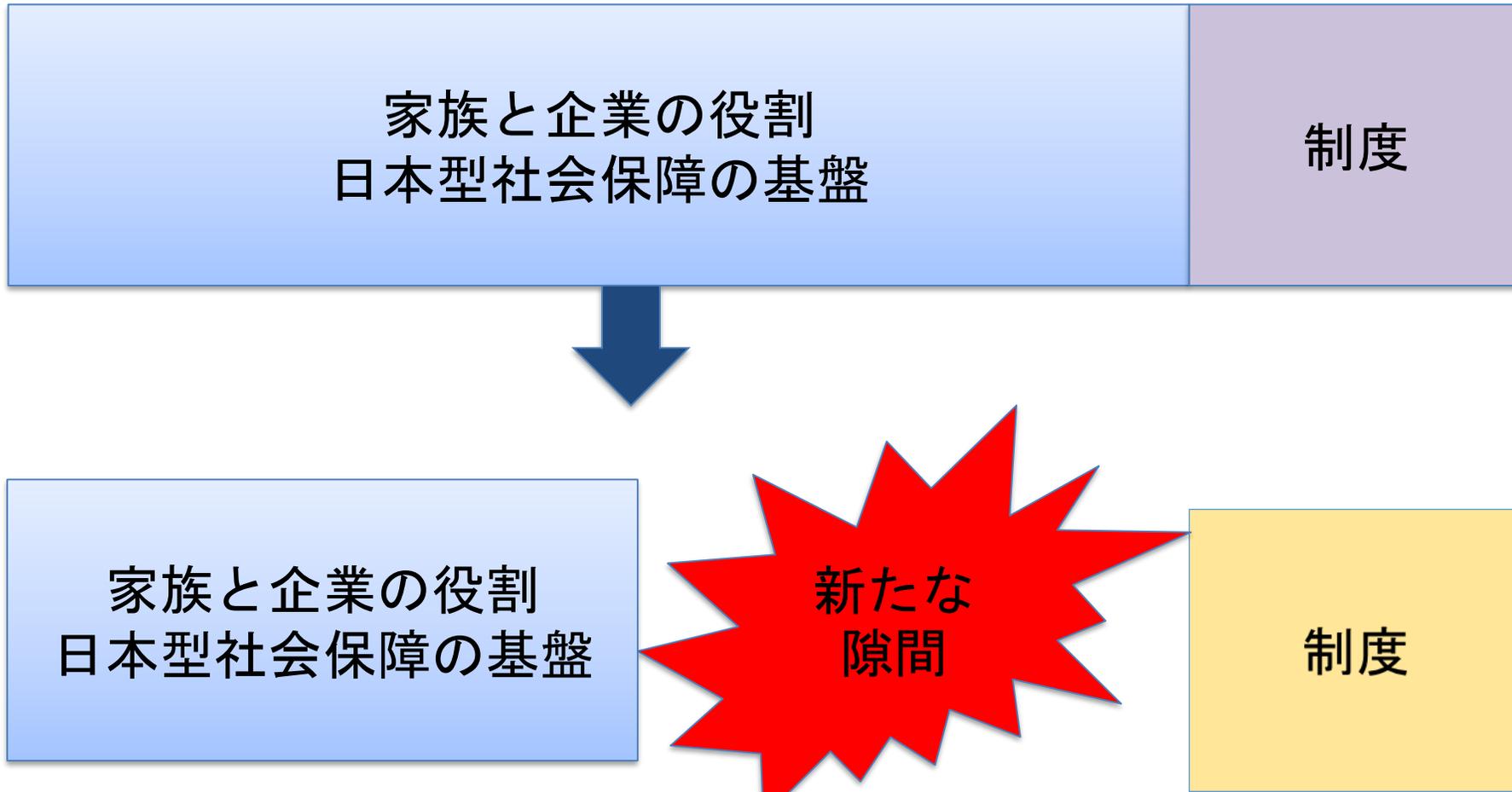
- ①2009年6月 ホームレス炊き出し よろず相談
- ②Y子の生い立ち
- ③なぜ、よろず相談に来たの？
- ④出産、子育てへ
- ⑤「児童虐待だ！」事件
- ⑥Y子の反論
- ⑦「わたしがお母さんから教えてもらったことは・・・」
- ⑧社会的相続をいかに始めるか
- ⑨「空っぽのコップ」に愛という水を注ぐのは誰でもいい

抱樸が目指したものの「家族機能の社会化」

従来の社会構造⇒家族・企業と制度

現在・・・家族と企業の縮小

制度の隙間と**制度との隙間**



家族と企業の役割  
日本型社会保障の基盤

NPO抱樸・地域  
家族機能の社会化  
社会的相続

制度

## 家族(家庭)モデルの5つの機能

社会保障・・・家族機能の社会化(赤の他人の登場)

### ①家庭内サービス提供

サービスの提供・・・住居、食事、睡眠、看護、教育、服飾、介護

※この部分の社会化も進行中・・・ファミマお母さん食堂、介護保険

### ②記憶の装置

記憶・・・アイデンティティとデータベース

### ③家庭外資源活用一つなぎ・もどしの連続的行使

家族のニーズに応じた社会的資源をコーディネート

もどし機能・・・社会資源淘汰機能

### ④役割と意味の付与・・・自己有用感確保・相互性の担保 助けられるから助けるへ

### ⑤何気ない日常(葬儀まで)・・・問題解決ではなく、生活そのもの

日常生活支援と言う新たな分野

※良い社会とは?・・・赤の他人が葬儀を出し合う社会

## NPO地域互助型支援事業

(支える・支えられる関係固定化の克服・・・参加と役割)

# NPO法人抱樸ボランティアセンター

- ①登録者数 1500人(市民+自立者)
- ②ボランティア派遣「お助け隊」地域の困りごとと解決
- ③声かけボランティア(孤立防止)
- ④サロン活動 水曜カフェ実施 午後2時～4時  
小倉地区二か所 八幡地区 二か所
- ⑤手紙ボランティア(誕生日・見舞い・季節のあいさつ)
- ⑥お見舞いボランティア
- ⑦冥途のみやげプロジェクト・相互にリクエストを叶える

# NPO法人抱樸 地域互助会

## 家族機能の社会化—地域共生社会

- ①誰でも入会可能 年会費6000円(月額500円)
- ②会員数270名(内当事者:なかまの会 150名)
- ③世話人20名 見守り活動(定期訪問)
- ④年間行事 バス旅行、花見、新年会、誕生日会
- ⑤サロン 卓球(毎週)、カラオケ(毎週)、かふえ(毎週)
- ⑥看取りと葬儀 互助会葬と偲ぶ会(追悼集会)

⇒大家の安心へ



葬儀は家族機能そのものの**地域共生社会**とは？  
赤の他人が葬儀を出し合う社会**家族機能の社会化**





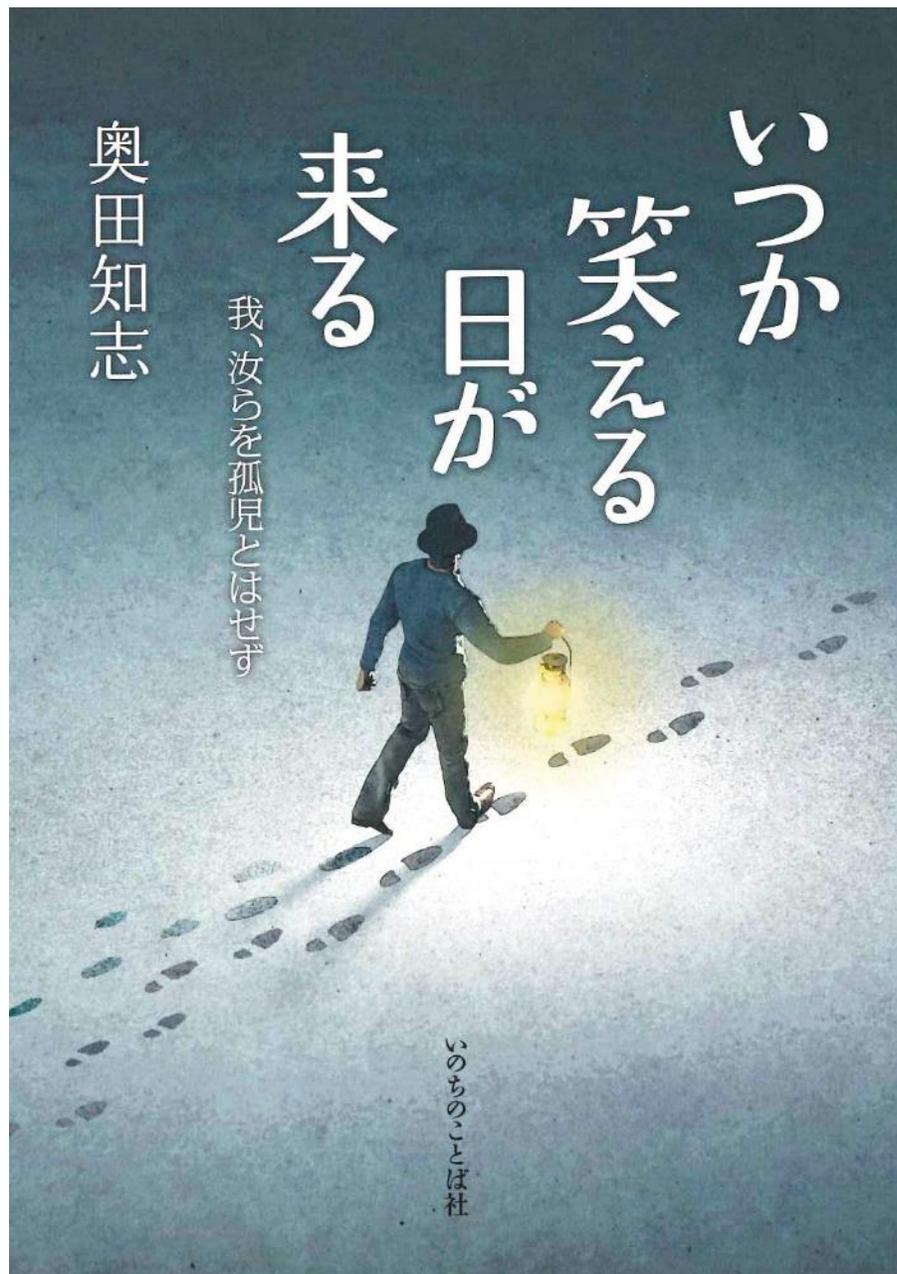
共同代表  
向谷地 生良さん



共同代表  
奥田知志

一般社団法人  
日本伴走型支援推進協会(仮)

2020年春  
お楽しみに



新しい本ができました！！  
「いつか笑える日がある」  
いのちのことは社

1500円

好評発売中！！

収益は、NPO法人抱樸に  
寄付されます。

# 社会福祉法人抱樸を設立して希望のまちを！

## 地域共生型救護施設！

### 応援団募集

◆代表呼びかけ人

◆呼びかけ人

◆賛同者 ◆ご寄付

断らない！

市民による社福を！

## 土地購入のため

## 一億円募金！

## 支援！

活動開始 30 年記念事業

ほうぼく  
社会福祉法人「抱樸」設立に関する  
ご協力のお願い



助け合う  
社会福祉法人  
ほうぼく

断らない支援！

ひとりも取り残さない

新しい家族のかたち

共生型救護施設を！



認定特定非営利活動法人 抱樸  
〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田 2-1-32  
TEL 093-653-0779  
E-mail ettou@f8.dion.ne.jp  
HP <http://www.houboku.net/>



ご清聴ありがとうございました。  
ございほさした。

厚生労働省 令和元年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業  
「地域生活定着支援センターにおける質の高い実践を担う人材を全国的に育成するための、研修カリキュラム及び効果的な業務サポートツール等の検討・開発に係る研究事業」  
「理念研修 資料」

編集・発行 一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会  
代表理事 北岡 賢剛  
長崎県諫早市福田町 357-1  
TEL:0957-23-1332  
FAX:0957-24-1330  
URL: <http://zenteikyo.org/>

発行日 令和2年3月31日